

根石の子どもは根石で守る。誰でも、いつでも、どこでも。

【根石学区】根石声かけ隊

《学区データ》

学 区 名：根石学区

世 帯 数：5,667世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団 体 名：根石声かけ隊

事業開始年度：平成15年度



◆取組のきっかけと経緯

平成15年当時、時代の移り変わりにより保護者がみな働きに出てしまっている家庭が増え、登下校時の子どもの見守りが難しくなっていることがPTAにおいても課題になっていました。地域において防犯意識を根付かせる意味でも、地域住民により小学生の登下校時の通学を見守ってもらうことはできないかという意見が出ました。そこで、PTAによる学区総代会への働きかけを皮切りに、平成15年12月に学区防災防犯協会連合会、根石小学校PTA、子ども会、根石小学校など諸団体による児童安全ボランティアの組織化に向けての協議が始まり、平成16年2月に「根石学区児童安全ボランティア」として会が発足しました。

その後、公募により会の名称を「根石声かけ隊」とし、「根石の子どもは根石で守る。誰でも、いつでも、どこでも」をモットーに、子どもの安全や地域の安全を目指して、地道な活動を継続して行っています。

◆事業内容

根石声かけ隊では、見守り活動として、「学童の登下校時の見守り活動（通年）」、「新入学児童の付添い下校（4月）」、「学童の付添い下校（年12回）」、「自転車前かごに防犯プレートを付けてのパトロール（通年）」、「青色回転灯パトロール（通年）」を行っており、学区随所に「根石の子どもは根石で守る」と書かれた横断幕を掲示しています。

また、広報活動として、「機関紙の発行（平成16年3月発行、平成25年3月に28号発行）」や「ホームページの開設（平成17年3月開設）」を行っています。

現在、地域住民である約400人の隊員が、自身の健康管理も兼ねて、散歩感覚で防犯パトロール活動に参加しています。また、隊員には毎年更新する身分証を配布します。隊員は、隊員



の証である身分証を身につけて、活動を行っています。

また、地域において防犯意識を根付かせるためには、子どもたちにも啓発を行うことが必要です。そこで、冬休みの宿題として防犯標語を募集するなどして、子どもたちにも防犯について考える機会を提供しています。

◆成果

見守り活動を行っていることにより、学区内における犯罪件数が活動を始める前に比べて減少しました。

また、防犯標語などにより子どもたちにも防犯について考える機会を提供したことで、子どもたち自身も防犯意識について自覚を持った行動をとれるようになりました。

さらに、隊員が身分証を付けて継続的に活動を行っているため、地域において「身分証を付けている人は安心だ」という意識が根付き、隊員に対する信頼度が高まりました。そのため、子どもたちや地域住民とも積極的にコミュニケーションをとることができるようになり、今では、根石学区の地域安全において、「根石声かけ隊」は欠かすことのできない存在になりました。



◆今後の展望・課題

根石声かけ隊では、自主性を重んじて活動を行っているため、人手が不足している区域が発生しています。地域住民からもこうした指摘がありますが、あくまで自主的な活動であるために、幅広い区域の方へ参加を呼び掛けていく必要があります。

こんな工夫をしています！

●隊員の自主性を重んじ、事務局で管理しない

→ 発足当初は、隊員の信頼が重要な活動であることや重点エリアに人員配置をしたいという考えから活動を管理することも考えましたが、活動が管理されてしまうことで、隊員に「やらされている感」が出てしまい、活動がつまらなくなってしまうという懸念がありました。そのため、隊員の自主性を尊重し、隊員が「空いた時間」に「無理なく」住んでいる区域で自主的に活動をしてもらうようにしています。

その結果、継続的な活動につながり、地域において活動が浸透していくことになりました。

注目ポイント！

●活動が隊員の生きがいとなっている

→ 隊員の多くは退職後の高齢者ですが、家にいるだけでは多くの人とコミュニケーションをとる機会もなかなかありません。しかし、身分証を身につけて活動を行うことで、子どもたちからも安心してもらえるため、登下校時に子どもたちの顔を見たり、話をしたりできます。そのことが、隊員にとっても生きがいとなっており、「活動をしたくて活動をしている」という感覚となり、逆に「活動をさせてくれてありがとう」という思いで活動をしています。

そのことが継続的な活動にもつながっているといえます。